

なぜSDGsなのか？

「いきがい・助け合いサミット in 神奈川」・(公財) さわやか福祉財団主催の全体シンポジウムにズームで参加しました。何年振りかにシンポジストで経済学者の神野直彦先生のお話を聞かせて頂きました。

ホーモイではSDGsについて学習会をしていますが、漠然とはSDGsの必要性を感じていましたが、理論的に理解できたと思えました。それは「財政を踏まえて社会にとって助け合いの不可欠性」をテーマで話された神野直彦先生の「豊かさ」から「幸福」へ～社会目標の大転換～の話から理解できた気がしました。

以下はレジメです。

1 「豊かさ」から「幸福」へ ～社会目標の大転換～

① 「所有欲求(having)」と「存在欲求(being)」

◆所有欲求＝所有することによって充足される欲求
＝充足されると、「豊かさ」を実感する。

◆存在欲求＝人間と人間、人間と自然との調和（共生）によって充足される欲求
＝充足されると、「幸福」を実感する。

② 「存在欲求を犠牲にして、所有欲求を追求した社会（＝工業社会）の行き詰まりとしての「自然環境」と「人的環境」という二つの環境の破壊

◆人間と自然との共生の破壊としての「自然環境」の破壊
＝自然の自己再生力の破壊

◆人間と人間との共生の破壊としての「人的環境」の破壊
＝人間の社会の自己再生力の破壊

③ 「自然」と「人間の社会」の自己再生力を持続可能にする発展の追求

→SDGs

<感想>

私たちは豊かさ（所有欲求）を追い求めてきました。社会は安いものを大量生産し地球環境破壊や発展途上国で搾取などをして、あげくの果てに捨てるという行為をし、格差や環境破壊などを起こしてきました。その中で所有欲求のみ満たされ、人間の心の充足（存在欲求＝人間と人間、人間と自然との調和）は得られなかった。その為、心を病む人が多くなったのも一因ではないでしょうか。

自然や人間の社会の自己再生力を持続可能にするには、一時も早くSDGsに取り組むことが大事であることを学びました。ちなみに当会（ホーモイ）は発足当時「ゆたかな高齢社会の創造」を目的に活動していましたが、十数年前「しあわせな高齢社会の創造」に変えました。

